

ウッジからのご挨拶～これからもよろしく！～

吉田 勝一

1. ウッジ市の歴史と背景

ウッジ県はポーランドのほぼ中央に位置し、県都ウッジ市はワルシャワから西南西へ約 140km、人口は約 82 万人、ポーランド第3の都市である。1800 年代以降ユダヤ、ドイツ、ロシア、ポーランドの4民族が入植し繊維産業を起すまで、人口数千人の村にすぎなかったが、繊維産業の飛躍的発展に伴い、たくさんの女工や関連産業労働者が近隣農村から集まり、1900 年代初めには東欧のランカーシャと呼ばれるまでになった。

現在の都市建築はそのころ完成したアールデコ様式のもので、ポーランドでは最も新しい都市として、道路も碁盤の目状に区画整理され、領主館や王城を中心に同心円・放射線状に伸びた他の都市と異なった、非常に興味深い景観を作っている。さらに、人口の大半が工場労働者で、ユダヤ、ドイツ、ロシア、ポーランドの4つの文化の融合するきわめて特殊な都市として発展した。1900 年代初頭にはパリ万博に出演した「川上音二郎一座」がウッジを訪れ、工場労働者一般市民に歌舞伎などを見せている。ポーランド研究者には、国の発展ぶりを見るなら首都ワルシャワ、貴族の歴史や文化に触れるなら古都クラクフ、ポーランド人気質と庶民に出会うならウッジと、認められている。

第二次大戦中空襲に遭わず、戦後ワルシャワの首都機能が麻痺していた一時期はウッジに行政の中心があった。その後市内の高等教育機関が統廃合され、ルブフ大学(現ウクライナ)からの引き上げ研究者などを吸収してウッジ大学、工科大学、映画演劇大学(ポーランド唯一)、美術大学、医科大学、音楽大学などが設立され、ワルシャワに次ぐ教育文化都市となった。繊維産業の縁でフランス・リヨン市と姉妹都市提携を結び、ウッジ大学内に名誉領事部が置かれ、学生交流も盛んである。

1990 年代以降、社会主義崩壊と自由化に伴う合理化政策で繊維産業は壊滅的打撃を受け、失業率は 30%に達した。2000 年代にはローマ＝グダニスクを結ぶ南北線と、ロンドン＝モスクワを結ぶ東西線がウッジ市郊外でクロスする EU 国際道路建設、コンピューター通信機器の DELL 工場進出などに伴い、失業率も 10%前後に持ち直し、経済活動も盛んになった。市内各所に残る広大な工場跡地が外国資本のハイパーマーケットやヨーロッパ



よしだ まさかつ 埼玉県生まれ(父は戦争中、国後島に派兵され札幌で終戦)。札幌大学ロシア語学科卒業、北大スラブ研究センター研究生、ワルシャワ大大学院教育研究所給費留学。国立ウッジ大学国際関係政治学部日本学講座、元ポーランド日本協会ウッジ支部会長、現(法)梅田良忠教授記念ポーランド日本教育文化センター代表。ポーランド人妻と娘一人、夏はオポーレの古農家で 11 匹の猫たちと共同生活。

有数の面積を誇る一大アミューズメント地区、都市型総合住宅マンションなどに生まれ変わった。

一般にウッジは工場都市のイメージが強く、2000 年代初頭までほとんど変わらなかったが、最近5年間の変貌はすさまじく、現在ポーランド国内で一番変貌が著しい街、生活する街といえる。ウッジファブリッチナ(ウッジ工場)駅は目下地下ホームの建設中(もはや映画「約束の土地」1974 の面影はない)、来年開業を目指し地上部、周辺道路の整備を進めている。今まで2時間半以上かかったワルシャワへの連絡が高速列車で1時間 20 分と便利になる反面、私の学部は駅隣にあるため、駅前のメインストリートでキャンパスは二分されてしまった。

また、自由化以降、前記の6国立高等教育機関に加え、経営大学、人文経済大学、国際関係大学、デザイン美術大学、教育大学など 17 の私立大学が開校し、現在約 13 万人の大学生がウッジで学んでいる。こうした民間大学の中には、特色を出すため日本語教育など目新しいものを採用する傾向もあるが、教員・教材の準備不足、安易なカリキュラムなどから十分な日本語教育には至っていない。EU 加盟によりポーランド人も自由に EU 諸国で労働(出稼ぎ)あるいは就職できるようになり、学生もポーランド国内に限らず、EU 諸国の大学にも自由に入学、進学できるようになって、留学が飛躍的に増加した。これは教育の機会均等という面では多大な貢献だが、逆にポーランドの大学、企業が EU 諸国の波に晒され、雨後の筍のように増えた私立大学は今後どれだけ生き残れるか厳しい状況に置かれている。これらの現象はウッジ市に限らず、ポーランドの主要都市どこでも同様の傾向にある。

2. これまでの日本との教育文化交流

戦後ウッジ工科大学と北大工学部との共同研究で相互の交流が始まった。日本から工学関係者が定期的にウッジに来訪し、1980年代には北大工学部から小笠原正明教授、澤村貞史・晃子教授らがウッジ市に長期滞在し、研究生生活の間を縫って市民との文化交流活動に尽力された。1990年には当時の工科大学長 J.クロウ教授(元ポーランド日本協会ウッジ支部名誉会長、元ウッジ市副市長)に日本政府より勲三等瑞宝章が授与され、また旭川高専学長吉田宏教授(2002年度)、東大工学部染谷常雄教授(2003年度)らに工科大学より名誉博士号が授与された。ウッジには来られなかったが、相馬純吉教授はウッジという街を理解し、北大留学中のクロウ教授の親日感に影響を与えた一人だった。最近では2015年10月にコシノジュンコ氏が服飾デザイナーとしてウッジ美術大学名誉博士号とウッジ市名誉市民号を受けた。

2004年、ウッジ大学考古学部教授で国立ウッジ考古学民族学博物館教授でもあった故ヤジジェフスキ氏と、ポーランドの日本語教育の草創的存在である故梅田忠良関西学院大学教授との友情が基になり、地方都市における日本語教育文化の情報発信センターとして梅田記念ホールが博物館内に設立され、(法)梅田忠良教授記念ポーランド日本教育文化センターとしてポーランド日本協会ウッジ支部から独立し、教育文化普及事業を始めた。このような方々の尽力により、現在まで日本語教育文化活動がウッジ市で継続されている。

3. 現在のウッジ市における日本語教育文化活動

ポーランドと日本の文化協定締結に伴い、1978年にポーランドにポーランド日本協会(日本に日本ポーランド協会)が設立され、1982年にはウッジ、クラクフ、ポズナニに独立の地方支部が設立された。ウッジ支部は非営利活動を目的とする文化交流団体として政府の認可を受けた唯一の支部として、日本語市民講座などの教育文化普及事業を始めた。毎年日本文化週間を開催し、日本語教育や日本文化紹介プログラムを通して一般市民の日本理解を深め、日本学科進学希望学生などを輩出するようになった。1980年代初めには、それまでワルシャワ大学日本学科の学生が優勝を独占していた日本大使館主催日本語弁論大会で、市民講座受講生が初めて優勝し、日本語は大学の日本学科以外でも十分学べるという認識が市民に定着し、市民講座の役割が評価される一因となった。

こうした背景の中でウッジ工科大学、ウッジ第三大学(社会人高齢者のための公立生涯学習機関)、ウ

日本春の日展
2016.1.30-31

(左) 室内庭園前
でお茶会
(下) 学生発表を
一心に聞く市民



ッジ大学などでも日本語授業が取り入れられ、さらに教育委員会の要請で中学、高校特別科目授業として巡回日本文化教育授業も行った。1992年より JICA 青年海外協力隊ポーランド派遣隊員現地直前訓練を受け入れ、教育文化事業を(法)梅田忠良教授記念ポーランド日本教育文化センターが引継ぎ、協力隊撤退までの15年間担当した。その後民間からの派遣になった日本語教育ボランティアの研修も毎年9月にウッジで行われている。

日本側、ポーランド側のさまざまなウッジ関係者の協力を経て、現在は①毎年11月中旬の1週間にウッジ市日本ウィーク(1982年に始まり今年で34回目、ポーランドで一番古い日本週間事業)、②2月初めの週末に植物園日本春の日展(冬の間植物園は閉鎖されるので、植物園建物内に日本庭園を造り庭園観賞、ポーランド人学生たちの日本発表やお茶会、浴衣試着などを催す。桜の咲く春には植物園でお花見会を開き、市民に日本の春を楽しんでもらう。2002年から開催)、③5月中旬の土曜日に全国国立博物館協会主催博物館オールナイト朝までニッポンプログラム(夕方5時から翌日午前3時まで全国の国立博物館が市民に無料開放されるイベント。民族考古学博物館の



第2回ウッジ市日本語スピーチフェスティバル
(2016.6.5) 参加者、左端4列目が筆者

プログラムとして書道、折り紙、水墨画ワークショップなどを実施)、④年度末の6月にウヅジ市日本語スピーチフェスティバル(昨年から始まった最新プログラム。日本語のスピーチ技術力を競うよりも日本語を楽しむ交流の場として、市内で日本語を学ぶ生徒、学生、社会人が日本語を通して交流・発表し、ウヅジ滞在の日本人留学生がポーランド語で発表する。今年は54名が参加などのほか、ウヅジ工科大学での日本語市民講座、民族考古学博物館での水墨画教室などが通年で毎週開催されている。

4. 終わりに

私が初めてウヅジの街へ来たのは1978年秋、留学生としてだった。札幌から横浜へ行き、船でナホトカへ向かい、モスクワ経由、列車でワルシャワ、ウヅジへ辿り着いた。終着駅の、街の中央にあるファブリッチナ駅ホームに降り立ったときは、長旅の安堵とついに来たかの思いがまさり、まさかその後この街で働き、生活するようになるうとは夢にも思わ

なかった。経済不安、自由化闘争、戒厳令、社会主義崩壊、EU加盟という激動の中で、クロウ教授と一緒に日本協会ウヅジ支部立ち上げ、工科大学日本語教育事業などを行い、ポーランド人女性と家庭を持ち、娘を育て、今年7月末その娘が結婚した。娘が生まれたのは、ヨーロッパ東西陣営の地殻変動が起こり、日本は昭和から平成に移行した1989年だった。平和の泉、和を伝える泉になってほしいという思いを込めて和泉と命名した。クロウ教授が健在であったなら、誰よりも娘の晴れ姿を喜んでくださったに違いない。私は微力ではあったが、草の根交流として今日まで継続して続けられたのは、周囲の理解と家族に支えられてのことだった。

今回これまでの活動を振り返り思いを新たにする執筆の機会を与えてくださった安藤会長と小笠原副会長に感謝申し上げます、双方向の継続がさらに豊かなものとなるよう継続する大切さを感じている。

「北海道ポーランド文化協会の皆さん、これからもどうぞよろしく！」



〈後援イベント〉のお知らせ

李政美 (イジョンミ) コンサート

曲目: 今日帰れない(ポーランドパルチザンの歌)ほか、2016年9月21日(水) 19:30~、札幌豊平館、料金3,000(当日3,500)円; 9月22日(木・祭) 19:00~、小樽文学館、料金2,500(当日3,000)円、予約・お問合せ: 熊谷 080-4045-1461

札幌豊平館、小樽文学館という歴史文化の息づく空間でイジョンミさんの感動の美声を共に感受出来ましたら、本当に嬉しい限りです。(熊谷敬子)



遠藤郁子ピアノリサイタル「ショパン序・破・急・幻」

2016年9月15日(木) 19:00~、六花亭札幌本店 6F ふきのとうホール(北4西6)、入場料5千円、お問合せ: オフィス・ワン 011-612-8696

能の演目に見立てたショパンの音魂(おとだま)が幽玄の世界に響く。いのちの深淵を見たピアニストが紡ぎ出す魂の音楽。

《第77回例会》(第2回東京例会) 報告

遠藤郁子ピアノリサイタル「ショパンと私とポーランド」

2016年6月23日(木) 18:30より、ポーランド共和国大使館ホールにて、遠藤郁子ピアノリサイタル「ショパンと私とポーランド」が開催され、約100人が遠藤郁子さんの全曲ショパンのすばらしい演奏に聞き入りました。演奏終了後には、コザチェフスキ大使から花束が贈呈され、またポーランド広報文化センター主催のレセプションが催されました。(東京事務所長 霜田英磨、写真: 尾形芳秀)



Dni Kultury Japonii w Łodzi

03-07. XI. 2015

ことしのテーマ 日本映画の100年

“100 lat kina japońskiego”



*miejsce:

Muzeum A i E, Łódź Pl. Wolności 14

Organizatorzy:

*Ośrodek Języka i Kultury Japonii

im. prof. Ryouchu UMEDY w Łodzi

*Muzeum Archeologiczne i Etnograficzne w Łodzi

*Pod patronatem Ambasady Japonii w Polsce

Współorganizatorzy:

*Zakład Azji Wschodniej Uniwersytet Łódzki

*Łódzki Uniwersytet IIIw.

*Japonistyka WSSM w Łodzi

*IFE Politechnika Łódzka

*II LO w Łodzi

*Tow. Japonia-Polska Oddział Kansai w Osaka

Informacja <http://www.bunka.org.pl/>

プログラム 「日本映画の100年」

企画/主催

(法)梅田良忠教授記念ポーランド日本教育文化センター

共催

国立ウツジ国古学民族学博物館/ウツジ大学東アジア学科/
ウツジ第三大学/ウツジ国際大学日本学科/ウツジ工科大学/
ウツジ県立第2高等学校/日本ポーランド協会関西センター

後援

在ポーランド日本国大使館

メイン会場

国立ウツジ国古学民族学博物館多目的ホール

2015年11月3日(火)

17:00 日本ウィーク開会式

17:20 「鬼-川本喜八郎の人形世界と神話」
吉田和泉

18:00 記念映画会「日本映画の100年」

大島渚監督作品、1995年、52分

19:00 開会記念会

2015年10月4日(水)

17:00 「時代劇とチャンバラ-日本映画の歴史想像」
マグダ ヤクブチック

17:45 記念映画会「赤ひげ」黒澤明監督作品
1965年、185分

2015年11月5日(木)

17:00 「日本ホラー映画-日本人は何を怖がるのか」
ベアタ ミルチャレク

17:45 記念映画会「羅生門」黒澤明監督作品
1950年、88分

2015年11月6日(金)

17:00 「日本アニメーション映画の歴史」
ドミニカ ガウエンザ

17:45 記念映画会「乱」黒澤明監督作品
1985年、162分

2015年11月7日(土)親子で楽しむ日本ウィーク

12:00 子供映画会「ポニョ」宮崎駿監督作品
2008年、101分

13:45 子供日本ウィーク おりがみ、書道体験、
みんなで歌おう、ゲームと遊び、
日本クイズ大会など

協賛行事

2015年10月11日 茶道紹介と体験 桐生新子、
衣川やよい、衣川純一、考古学民族学博物館内
日本センター

2015年11月16-30日 日本人形展
中央区図書館 Aストウルガ通り14番地



日本の春の日展 KULTURA JAPONII

日時 która odbędzie się **29 - 31 stycznia 2016 r. w godz. 9.00 - 17.00** w sali wystawowej
会場ウツジ植物園 Ogródu Botanicznego 住所 przy ul. Retkińskiej 39. 入場無料 Wstęp wolny

Organizatorzy:主催

* Ośrodek Języka i Kultury Japonii im. Prof. Ryochu Umedy (法) 梅田良忠教授記念日本センター * Ogród Botaniczny ウツジ植物園 * Zakład Azji Wschodniej WSMiP UŁ ウツジ大学東アジア学科 * Anna Krysztofiak z Filharmonii Łódzkiej ウツジフィルハーモニー A クシントファク * Towarzystwo Przyjaciół Ogródu Botanicznego ウツジ植物園友好協会 * Łódzki Uniwersytet III w im. Heleny Kretz ウツジ第三大学 * Wyższa Szkoła Studiów Międzynarodowych w Łodzi ウツジ国際大学

W tym roku zapraszamy serdecznie na koncert muzyki japońskiej, który wykona Pani Anna Krysztofiak z Filharmonii Łódzkiej a także pokaz instrumentów muzycznych pochodzących z Japonii. Pokażemy japoński ogród literacki oraz zaprezentujemy dekoracje związane z dzieckiem w rodzinie japońskiej. Odbędą się również prelekcje i warsztaty związane z kulturą Japonii. 日本楽器紹介と演奏、創作日本庭園、テーマ発表「日本の家庭と子供若者たち社会（発表者 ウツジ大学生、留学生、日本語教師）」

W programie: プログラム **30.01.2016 (sobota) 2016年1月30日(土)**

11.00 - 14.45 - Prelekcje poświęcone kulturze Japonii: テーマ発表第1部 (×20min.)

Edukacja w Japonii - Sylwia Łagnowska 日本の教育 S ワグノフスカ
Moda młodych Japonczyków - Ai Tsujino 日本の若者ファッション 辻野愛
Tradycyjna rodzina japońska - Klaudia Sękowska 伝統的な日本家族 K センコフスカ
Pozycja kobiety - matki we współczesnym społeczeństwie japońskim - Patryk Kujawiński 女性の位置 K クヤビンスキ
W świecie muzyki japońskiej - Anna Krysztofiak 日本音楽映像 A クシントファク

15.00 - 15.45 - Koncert muzyki japońskiej - gra Pani Anna Krysztofiak 日本音楽演奏会 A クシントファク

16.00 - 17.00 - Prelekcje poświęcone kulturze Japonii: テーマ発表第2部 (×15min.)

Sztuka przyjemnego spędzania czasu - Anna Wojda 余暇の過ごし方 A ボイダ
Zabawa śniegiem - Sachi Kido 雪遊び 木戸幸
Studenci w Osace - Yusuke Ichikado 大阪の学生 一門祐輔
Stosunki kulturalne pomiędzy Wietnamem a Japonią - DAO Tuyet Thao ベトナムと日本 タオ ダオ

16.00 - 17.00 - **Warsztaty:** zimowe orgiami dla dzieci - Barbara i Izumi Yoshida ワークショップ 折り紙 吉田和泉

Kaligrafia japońska - Masakatsu Yoshida oraz wolontariusze z Japonii 書道 吉田勝一
Ceremonia herbaty - Shinko Kiryu, Masakatsu Yoshida 茶道紹介 桐生新子

31.01.2016 (niedziela) 2016年1月31日(日)

11.00 - 14.30 - Prelekcje poświęcone kulturze Japonii: テーマ発表第3部 (×20min.)

Nowy styl życia - japońska toaleta - Sara Bednarska 日本トイレに見る新しい生活様式
Miasto - miejsce dla młodzieży i dla osób starszych - Daria Karbowskiak 若者の街、年配者の街
Dzień dziecka i święto lalki - dzień dziewczynki - Magda Jakóbczyk 子供の日、ひな祭り
7 5 3 /siedem, pięć, trzy/ oraz seijin no hi - święto dzieci i dorosłych - Beata Milczarek 七五三と成人の日 B ミルチャレク
W świecie muzyki japońskiej - Anna Krysztofiak 日本音楽映像 A クシントファク

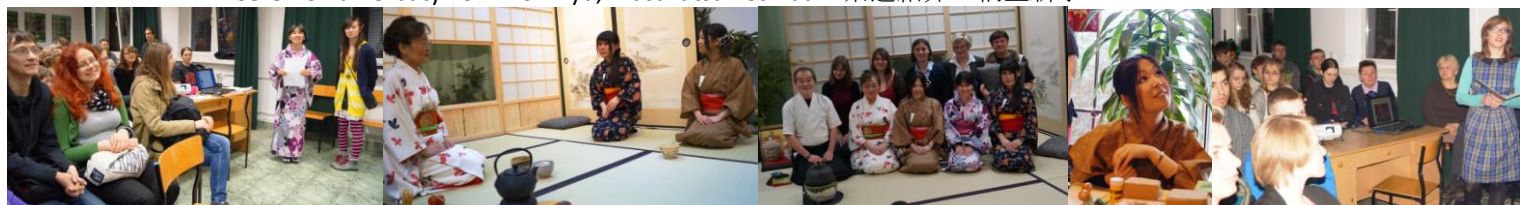
15.00 - 15.45 - Koncert muzyki japońskiej - gra Pani Anna Krysztofiak 日本音楽演奏会 A クシントファク

16.00 - 17.00 - Prelekcje poświęcone kulturze Japonii: テーマ発表 第4部 (×15min.)

Obento - drugie śniadanie, popularny posiłek Japonczyków - Dominika Gałęza お弁当 D ガウエンザ
Dialekt w Osace - Kenji Miura 大阪弁 三浦健司
Tokio najpopularniejsze miasto dla japońskiej rodziny - Ciharu Tomishige 住みたい東京の街 富重千春
Jedyny tramwaj w Tokio - Akane Taguchi 東京でただ一つの都電 田口あかね
Szkoła Podstawowa w Japonii - Mariko Hodajji 日本の小学校 宝代地まり子

16.00 - 17.00 - **Warsztaty:** zimowe orgiami dla dzieci - Barbara i Izumi Yoshida ワークショップ 吉田バルバラ

Kaligrafia japońska - Masakatsu Yoshida oraz wolontariusze z Japonii 折り紙 吉田和泉、書道 吉田勝一
Ceremonia herbaty - Shinko Kiryu, Masakatsu Yoshida 茶道紹介 桐生新子



「第2回 ウッジ市日本語スピーチ大会」

ウッジ市の大学、高校で日本語を学ぶ学生や社会人が、日頃の学習・練習の成果を発表する「第2回ウッジ市日本語スピーチ大会」を開催します。テーマは自由で、それぞれの学習進度に応じて気軽に発表してください。優秀なスピーチ、個性的なスピーチに「熱弁賞」「発音賞」「文法賞」などを差し上げます。

記

- △開催日=2016年6月5日(日) 昼12時
- △会場=考古学民族学博物館多目的ホール
- △スピーチタイトル=自由。趣味や自分の将来の夢などを加えた自己紹介程度で可。
- △スピーチ時間=3分以内。原稿を読んではいけません。暗記してください。
- △出場申し込み=5月21日(土) 午後5時までに、各校の日本人の先生に、メールで。
- △予定出場校・出場者数(45)=ウッジ国際大学、ウッジ大学、ウッジ工科大学、第2高校、市民講座、ウッジ第三大学(社会人、高齢者)、外国人、日本人留学生、その他、人数は目安であり、多少の増減は構いません。

ウッジ市日本語スピーチ大会実行委員会
(法) 梅田良忠教授記念ポーランド日本教育文化センター

II ŁÓDZKI ZJAZD KRASOMOWCZY JEZYKA JAPONSKIEGO

2

II Łódzki Zjazd dla licealistów, studentów i uczestników kursów języka japońskiego, zorganizowany w celu przedstawienia efektów nauczania. Prosimy o zgłoszenia wg. poziomu znajomości języka oraz przygotowanie wypowiedzi na temat dowolny. Najbardziej interesujące wypowiedzi będą uhonorowane nagrodami:

„Wybitny krasomówca „ „ Nagroda dobrej wymowy „ „ Nagroda dobrej gramatyki „ itd.

Wszyscy otrzymają oryginalne japońskie dyplomy i nagrody za udział.

△Data :

5. VI. 2016 roku, w niedzielę od godz. 12:00

△Miejsce :

Muzeum Archeologiczne i Etnograficzne w Łodzi, Sala Audiowizualna.Pl.Wolności 14

△Temat :

dowolny lub prezentacja swoich zainteresowań oraz planów na przyszłość .

△Czas prezentacji : do 3 minut. Nie można korzystać z kartki. Mowa powinna być wygłoszona z pamięci.

△Termin zgłoszeń : 21. V. 2016 rok, sobota.do 17:00. Zgłoszenia przyjmują, przez E-maila, do nauczycieli języka japońskiego.

△Udział WSSM, UŁ, PŁ, II LO, ŁU III W, Lektorat Języka Japońskiego, Studenci zagraniczni., z Japonii

Komitet Organizacyjny oraz Osrodek Języka i Kultury Japonii im. Prof. Ryochu Umedy w Łodzi.